

第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

大分大学教育学部附属小学校

B-11

【活動名】 スクラップ＆スリムによる学校の多忙化改善

解決すべき課題：

- ・早朝から深夜に及ぶ長時間勤務。長時間の職員会議・研修・多い学校行事・土日祝日の勤務等により疲弊した教員。
- ・業務量が多いため、一つ一つの提案を精査する時間もなく、なんとか前年と同じ内容をこなす前例踏襲になっていた。
- ・勤務年数の長い教員が、短い教員へ指導する仕組み（年次制）が伝統的にあり、校長の学校経営方針をスピード感を持って進める校内組織がなかった。
- ・外部民間教育団体事務局を6つもかかえ、本来の業務以外の仕事が多量にあった。
- ・公立学校のモデルとなっていない独自の校内研修。
- ・県教育委員会との人事交流の停滞。 等々

目的や背景：

改革前は、多量の業務をかかえ教員は心身共に疲弊した状態であり、その噂から人事交流も滞る状態であった。そのような中、大分大学は第2期中期計画で「地域密着型」を選択した。そして、大分県教育委員会と連携を深め、附属学校園は大分県公立学校のモデルとなることを決めた。具体的には、各教科・領域の学習課題解決モデル・生徒指導を基盤とした学校経営モデル・主任制度を活用した学校経営モデル・スクラップ＆スリムによる業務の見直しモデルを示すことである。そのような背景の中で、平成27年度より本格的に業務の改善を行ってきた。

活動内容：

基本方針 **スクラップ＆スリムによって教員本来の業務に集中する**

- ・勤務時刻の上限下限を設定（7:00より早く登庁しない・遅くとも19:00には退庁する・土日祝日は勤務しない）。タイムカードによる管理。
 - ・行事は前例踏襲せず本来の目的に沿ったスリムな行事とし、行事終了後には総括を行い来年度への方向性を出しておく。（例）3～6年生の2泊3日の宿泊体験を1泊2日へ・3年生を廃止。5年生で3泊していた修学旅行を6年生で2泊へ。3年生以上の家庭訪問は3者面談へ変更。等
 - ・毎日の日記指導をやめ、国語科の中での作文指導を充実させる。
 - ・公開研究会をやめ各種セミナーを開催している。分厚い研究紀要は作らない。
 - ・外部民間教育団体事務局の辞退。 等々 （参考資料1：スクラップ＆スリムの観点）
- スクラップ＆スリムを支える組織作り **主任制度を生かした組織作り**
- ・校長・教頭の下に管理部を統括する主幹教諭・指導部を統括する指導教諭を置き、各種主任に責任と権限を与え、チームとして業務を行うようにした。（参考資料2）
 - ・職員会議を廃止し、毎日の経営会議（校長・教頭・主幹教諭・指導教諭）、月2回の運営委員会（経営会議メンバーと各種主任で構成）で審議する。その間、若手教員は学級の仕事ができている。
 - ・主幹教諭と各種主任で構成するワーキンググループ会議で、ミドルリーダーを中心に学校の課題について話し合いを持ち、必要に応じて経営会議へ報告する。
 - ・年次制の廃止。 等々

活動の成果：

子どもへ接する時間が増えた

- ・業務のスクラップ＆スリムによって、教員の子どもに接する時間が増えた。子どもの様子を学級や休み時間の運動場などで見取ることが増え、子どもの細かい変化に気づくようになり、後の指導に役に立っている。例として給食指導がある。給食指導に時間をかけられるようになり、食事のマナーや残食率に改善が見られる。（参考資料3）

学校の重点目標に集中できるようになった

- ・重点目標「グローバル人材の育成」に向け、外国語活動や総合的な学習の時間に学校全体として取り組んでいる。それに向け研修の時間を確保できるようになり、また、職員間での相談や打ち合わせが勤務時間内できるようになった。重点目標を達成するための全ての活動の土台となる生活指導、特に共感的人間関係の育成に全職員で徹底して取り組み、学校生活全体に活気と温かさが満ち溢れていった。（あいさつ・履物そろえ・無言掃除・フリートーク等の取組）（参考資料5・6）

教員に笑顔が増えた

- ・業務のスクラップ＆スリムによって、教員の疲弊感がなくなった。職員室で笑顔で打ち合わせをしている姿が見られるようになった。

アピールポイント（アイデア）：

業務改善は子どもの姿となって表れた

過去のやり方にとらわれず、ゼロベースで教育活動全般を見直し、重点目標に集中しそれ以外の活動は思い切ってスクラップ＆スリムした。3年間でのスクラップ＆スリムは50項目以上にのぼる。これまで続けてきた活動や業務を削るのは難しいことだが、校長のリーダーシップのもと思い切って削減した。その成果は学力の向上（参考資料4）、最後までがんばる姿、自己肯定感の向上等子どもたちの姿として表れている。また、保護者や地域の方等の声からも業務改善が子どものためになっていることがわかる。（参考資料5・6）

教員が元気になった

業務改善は教員の健康を守り、子どもへ明るく接する基盤となっている。教員と子どもたちが明るく元気に活動している姿は教育の本質の一つを表している。

エビデンスをとっている 改善の成果をアンケートや聞き取りなどのエビデンスをもとに検証している。（参考資料3～6）

(資料1) スクラップ&スリムの観点

スクラップ&スリムの観点

大分大学附属小方式ステップII スクラップ&スリム

- 子どもの肉体的、精神的負担軽減
- 年間の授業時数内でできる活動
- 法令上守るべき内容
- 教員の超過勤務軽減
- 教員の負担軽減及び子どもと過ごす時間の確保
- 教員の精神的負担軽減及び人材育成
- PTA活動の精選(児童の課題解決に向け活動の焦点化)

(資料2) 組織改編

組織改編

・職員会議 ~~X~~ → ・毎日の経営会議でスピーディーな運営。
2週に1回の運営委員会と職員連絡会実施。

<組織図>
管理部は主幹教諭が統括し、指導部は指導教諭が統括する体制に改め、教頭が担っていた業務を整理・分担。

(資料3) 残食率の改善

残食率の改善

子どもの姿(心と体)

子どもたちが、発表をする人をしっかり見ながら聞いていること、振り返り等をみんないっせいにきちんと書いていること、ファイル等プリントが整理されていることなどから、落ち着いて学習に取り組んでいる様子がすばらしく思いました。(視察の感想より)

年度	残食率 (%)
26年度	6.9
27年度	5.6
28年度	4.4
29年度	3.5

※全校児童対象、栄養教諭調査より

残食が減りました。平成25年度以前は調査はしていませんが、かなりの残食がありました。(栄養教諭)

(資料4) 学力の向上

学力の向上

子どもの姿(学力)
全国の国立校平均正答率との差(B問題)

年度	国立との差(国語B問題)	国立との差(算数B問題)
25年度	-4.1	-0.1
26年度	-2.3	-0.9
27年度	3.6	0
28年度	2.6	2
29年度	5.4	1.8

■国立との差(国語B問題) ■国立との差(算数B問題)

改革後

(資料5) 重点的取組への保護者の声

重点的取組への保護者の声

保護者の声

ほめ言葉のシャワーなど友達に認めてもらえる活動がとてもよいですね。子どもがうれしそうに話してくれます。(保護者の声より)

友達の話を聞く態度、聴くという雰囲気作りなどの取組は人としてとても大事なことだと思います。(保護者の声より)

高学年も恥ずかじがらずに英語を話していて、学級の雰囲気がいいのを感じました。(保護者の声より)

改革に伴って行っている取組だけでなく、教職員のチームワークの良さなども、家庭訪問や三者面談で話題になりました。昨年はほとんど聴けなかったその声が今年は100件以上!

(資料6) 重点的取組への地域の方等の声

重点的取組への地域の方等の声

子どもの姿(心と体)

自己他者肯定感テスト

年度	自己・他者肯定 (%)	自己否定・他者肯定 (%)	自己肯定・他者否定 (%)	自己・他者否定 (%)
平成26年度秋	73	22	3	2
平成28年度末	81	17	1	1
平成29年度秋	87	15	2	2

※全校児童対象の自己他者肯定感テスト結果より

授業中に不調を訴えて来室する子どもがほとんどいなくなりました。(養護教諭)

子どもたちの明るい笑顔にもさることながら、先生方がみなさん笑顔で自信をもって一つ一つの活動に取り組んでらっしゃるのが印象的でした。本当に必要と感ずるところに打ち込むことができる強さを感じました。(視察の感想より)